

主権者教育を推進する群馬県大学コンソーシアムに所属する学生チームが作成したインタビュー記事を紹介いたします。今回は第3回、Cチームの記事紹介です！


Cチーム

高崎経済大学、東京福祉大学、群馬医療福祉大学の学生でチームが組まれています。グループのテーマは「群馬県の地域福祉」に関するもので、県職員インタビューは群馬県庁の「地域福祉課地域福祉係」に、議員インタビューは大和県議に行いました。



◎第3回は、Cチームの県職員インタビュー記事、そして県議会議員インタビューの記事を添付しますので、是非ご覧ください！

県内市町村の選挙情報

選挙の種類	告示日	投票日	関連QRコード
安中市長選挙	4月5日（日）	4月12日（日）	

群馬県の地域福祉について

Cグループ

「インタビュー先」

地域福祉課地域福祉係

「担当職員」

近藤係長、菅原副主幹、前原主事、堀川主事

「インタビュー者」

高崎経済大学 三年 早川貴彦 白崎大雅

群馬医療福祉大学 二年 山中深冬 藤井啓達

東京福祉大学 一年 田島和奈 柿沼優里亜



Q 成年後見制度の県における取組や国や市町村との役割分担・連携について教えてください。

市町村職員の方に成年後見制度があまり浸透していない場合もあるので、すべての市町村で同質の行政サービスが提供されるよう、市町村職員向けの研修や圏域別の情報交換会を通じて、市町村の実務力と相互連携を高める取組を行っています。また、国の計画や制度が県内で円滑かつ実情に即して運用されるよう、制度の周知や市町村間の調整、専門職団体や家庭裁判所など関係機関との連携体制の強化に取り組んでいます。

Q 災害福祉支援ネットワークに関連して、災害時には県庁はどのように動いていますか。

群馬県の災害福祉支援ネットワークは、災害派遣福祉チーム「DWAAT」（避難所等で活動）と施設間相互応援（施設への人員派遣）の二本柱になっています。「DWAAT」とは、主に高齢者や障害者等の要配慮者を支援するためのチームで、群馬県から依頼を受けた群馬県社会福祉協議会が、職員派遣の指示や人員の編成等、事務局機能を担っています。「施設間相互応援」は介護福祉施設などに入所されている方々に支援する取組であり、災害時に福祉施設間で人員や物資、入居者の受け入れなどを実施するものになります。

Q 令和七年十二月に民生委員の一斉改選がありました。人材不足の観点から県として対策していることはありますか。

今まさに、三年に一度の民生委員一斉改選に取り組んでいます。民生委員の主な役割は高齢者の見守りですが、担っていただいているのは六十代以上の方が中心です。そのため、民生委員の高齢化が人材不足の一因となっています。県では、こうした状況に対応するため、従来の年齢制限といった機械的な基準による選出から、個々の能力や健康状態を考慮して選出することを重視するなど、「県民総活躍」を目指した工夫を行っています。

Q 更生保護について群馬県が国の業務の支援として行っていることを教えてください。

主に更生保護協会などの国の所轄団体が行う事業に対し補助金を交付したり、更生保護の作文コンクールの表彰式や、「社会を明るくする運動」等の事業実施に協力しています。七月は「社会を明るくする運動」の強化月間ということもあり、各市町村と協力して広報活動を行ったり、県庁の昭和庁舎を黄色にライトアップを行いました。

Q 全国的に若手を中心に公務員の離職率が高いことが話題になっていますが、その理由について現職からの見解を伺いたいです。（以下県職員の働き方に関する質問）

正解のない問題に直面することが多い福祉職の離職率が、他の職種に比べると高い印象があります。庁内では、新規採用職員等が悩みを抱え込まないようサポートする、メンター制度といった取組がなされています。

Q 県職員として働いていく中で、学んでおけばよかったと思う知識はありますか。

県庁職員も専門的なことは分からずに入庁する人が多いですが、その分、学ぶ機会も多く、前任から後任への引き継ぎもすっかりした仕組みがあります。これは県庁ならではの強みだと思います。専門的な知識というよりは、コミュニケーションスキルのような汎用性の高い能力があるといいのかなと思います。

Q 地域福祉課の職務で大変なことは何ですか

自身が以前所属していた部署と異なり、多様な職務を同時並行で進めなければならず、スケジュールや進捗状況の整理が大変です。

Q この仕事をしていて、やりがいを感じる時はどのようなときですか？

地域福祉系の業務は目に見える成果が少ないため、長年働いてきた中でも一番やりがいを感じにくい気がします。しかし、福祉について端から端まで知ることができるため、将来に向けて自分自身にとっても必要な知識を得ることができます。直接、県民と関わることは少ないですが、関わる人が多い市町村や施設の方に感

謝を伝えてもらったときはやりがいを感じます。

「編集後記」インタビューを終えて

今回、地域福祉係を訪問し、福祉系の部署の仕事の内容や大変さを知ることができ、公務員志望の者として、貴重な機会となりました。（早川）

日々、安全・安心に暮らしているのは県職員さんをはじめとした多くの方の尽力あってこそのものであるということを感じました。これからも、県職員の方のやりがいとされていた「感謝」を忘れずに日々を送ろうと思います。（山中）

今回、県庁職員の方々から直接お話を聞くことができ、とても貴重な経験になりました。そして県の新しい強みを知り、もっと群馬県について学んでいきたいと強く感じました。（田島）

今回のインタビューで県庁職員の方とお話ができ、地域福祉課として何を行っているかを知る良い機会になりました。この学びを今後の生活や学習に活かしていきたいです。（藤井）

今回、県庁の職員の方々からお話を伺い、県民の暮らしを支えるために多くの工夫や努力がなされていることを知りました。この経験を通して、

これからも群馬県についての学びを深め、今後の学びに生かしていきたいと思いました。（柿沼）

今回の取材では、職員の皆さんが様々な知見のもとに地域の諸課題への対策を講じていることを学ばせていただきました。この経験を今後の学びに生かしていきたいと思います。（白崎）

（実施日：令和七年九月十六日）

「インタビューした人」

大和勲県議

【担当】

高崎経済大学 三年 早川貴彦
高崎経済大学 三年 白崎大雅



Q 何故、県議会議員になろうと思いましたが？

私の家系が政治家に関わりがあったことがきっかけです。曾祖父が村長をしていたことを、小さい頃から家族の歴史として教わっていましたし、大和家が地域の人から政治一家だったと

いうことは知られていたことが影響していました。また、自身がPTAに携わり、いろいろな人と関わり合ってきた経験から、そのような仕事をしたいと思ったことがきっかけとしてあります。

Q これまでの取組みを教えてください。

政策提案として、福祉面においては、子ども園の拡充や保育士試験の試験回数を増加させたり、就職支援センターの開設を行ったりしました。その他には、地元伊勢崎の堀口交差点の改良を群馬県の県土整備プランに盛り込んでもらうことに尽力したり、夜間中学校の設置請願書を提出したりしました。

Q 最優先に対策したいことは何ですか？

やはり、人口減少による少子化対策です。解決手段としては、保育施設を拡充して、子育てしやすい環境にしたり、企業誘致をして、雇用創出し、定住・子育てしてもらったりすることが大切だと思います。

Q 県議会議員になって良かったことや苦労したことはありますか？

県議会議員は人の役に立つことが仕事ですのでも、県民の皆様からいただいた要望を叶えて、感謝された時には、県議会議員になって良かったと思えます。苦労したことは、県議会議員同士で意見をまとめ上げることです。私が所属する自由民主党は群馬県議会に三十名在籍してい

るため、多数の意見をまとめることは大変です。

Q 県議会議員に必要な能力は何ですか？

県議会議員は住民の意見を行政に伝えるパイプ役で、執行ではなく議決権を有するものであるため、政策提案を積極的に行うこと、行政の監視、議会や議員の見える化などに取り組む姿勢が求められると考えています。

Q 大和議員の選挙区である伊勢崎市では、近年外国人労働者が増加傾向にあるとのことですがこれは地域福祉にどのような影響を与えていますか？

外国人材に関しては、現在人手不足が深刻化している地域福祉の担い手として活躍が期待されています。一方で、定住された外国人の方々も高齢になれば福祉を受ける側になるため、将来の人手不足がますます深刻化するかもしれません。また言葉の壁による意思疎通の難しさ、文化の壁もこれから問題になる可能性があると考えています。

Q 大和議員は高崎経済大学の出身ですが、政治家をされるうえで役に立っていることはありますか？

群馬県内の経営者や県庁職員に高経大の出身者が大勢いらつしやるため、同窓生として気軽に意見交換できています。また、県庁においては、高経卒の議員と県庁の管理職が集まる懇親会が開かれるため、そのような会に出席して関

係を築くことは、仕事をする上で有利に働くと思います。

次に、大学では、民法系のゼミに所属していましたが、大学での講義で学んだことよりも、例えば、サークルを立ち上げたというような課外活動の方が、現在の政治活動において役に立っていると感じています。強いて言うならば、英語をもっと勉強し、話せるようになっておけば良かったと思っています。

Q 社会人時代の経験は県議会議員の職務に生かされていますか？ また、生かされているとしたらどんな場面ですか？

県議会議員になる前はベイスシアで勤務していましたが、そこでは物を粗末に扱うことで損が発生するということを痛感し、無駄は少しでも省かなければならないというコスト意識を身に着けました。また、前向きに考えることや、経験上できないと思ってしまうことでも、一度立ち止まって勉強をし、何かできる方法がないか考えることの大切さも学びました。その他にも、小売業界ということで、特に数字で話すという習性が身についたと思います。

Q 県議会議員はプライベートな時間や場所が確保されていないような印象があるのですが、実際はどうなのですか？

休日は、議会は開かれませんが、地元で行事が行われることがあり、仕事はあります。また、

街中で支持者の方に声をかけられることもありますが、その方々からすれば、私自身に会える数少ない機会である訳ですから、休日でもお話ししたり、ご質問にお答えしたりしています。私はいくつかしたことでも仕事だと思っているのですが、ストレスには感じません。プライベートを確保したいならば、自身で「オフ」を作ることが大切だと思います。

Q 最後に、若者に伝えたいことはありますか？

政治は変えられるということです。政治は経済にも影響を与えますので、皆さんの生活にとっても政治は切り離せない存在です。とてもやりがいのある仕事ですので、皆さんも、将来政治家を目指されてみたいかがでしょうか。本日は本当にありがとうございました。

「編集後記」インタビューを終えて

私は、群馬県議会議員であり大学の卒業生でもおられる大和議員にインタビューをし、県議会議員の仕事や裏話などいろいろなお話を聞くことができ良かったです。私たちが後輩ということもあり、優しく楽しくインタビューに答えていただきました。

大和議員は、若者の政治参加に関心を持たれており、「GACHI(ガチ) 高校生×(かける) 県議会議員」政治を知らないきやソンをする！」の参加学

校の増加に取り組みられていることも知りました。

県議会は国会、市町村議会と比べて知名度や関心が低く、「キヨリ」感があり、仕事内容が想像しづらいと思われるのですが、このような活動を通して市民と県議会の「キヨリ」が縮められるようになればと思います。(早川 貴彦)

今回のインタビューの中で大和議員は数字で物考えることやコスト意識を身に着けることなど民間企業で就業した経験が議員生活に役立っていると語っており、多種多様な立場や職種の人たちが政治に参加することによってより良い政治ができるようになるのではと感じました。

また最優先に取り組みたい課題として県全体としての人口減少を上げており、今後様々な分野で人材不足が進展していく中で、県全体としてどのように対応していくのか注目していきたいです。

(白崎 大雅)